

女子中高生夏の学校(2022年)への貢献

2022年8月22日

プラズマ・核融合学会 男女共同参画委員・芦川

本学会・男女共同参画委員会は、2015年から同夏の学校への貢献をしております。今年度は完全リモート開催（2021年度と同様の形式）でした。準備や当日の対応について、大学の学生さんらに協力していただいた方が参加する中高生にとって良いのではないかとのご意見をいただきました。そこで、本学会としては新たな試みとして、女子学生がいる学会員の研究室を候補とし、結果的に静岡大学の近田拓未先生および同研究室の学部学生さんらに対応の依頼をし、ご協力いただけることになりました。

今年度は2022年8月7日-8日の日程で実施され、うち1日目となる8月7日『ポスターとキャリア相談「研究者・技術者と話そう」』に本委員会は貢献しました。当日は、清水悠加さん（近田研4年生）、近田先生と共に、本委員会からは米田仁紀先生、市口勝治先生、眞銅雅子先生および芦川が参加しました。実行委員からの事前アナウンスとして、参加する生徒さんが気おくれしないよう対応する人数を少数にするよう依頼がありました。そのため、実際に話をするのは清水さんと近田先生が中心で、他の4名は聴講という形式で参加しました。20分x4セットで、短時間の休憩を挟みながら各時間に3名ずつの生徒さんの参加がありました。その後、最後に自由時間として25分の枠がありました。参加している生徒さんらがZOOMでの会話に不慣れだったりするので、こちらから生徒さんに呼びかけて質問を引き出すといった配慮が必要です。清水さんは質問しやすい雰囲気を作りながら、一人ひとりと丁寧にやり取りを重ねていました。具体的には、文理選択や進路についての悩みに関する相談や、苦手としている教科の勉強法に関する質問が多く、それらに対して清水さんがアドバイスをしました。限られた時間内に参加した生徒さん皆さんに声がけをするのは、昨年対応した時の自身の経験を踏まえても大変だったと思います。実施後には、参加した委員から「清水さんの進行は最高でした。中高生の人たちの興味を引き出したり、適切なアドバイスをしてあげたり、とてもよかったです。私が一番感心したのは、無理にいいかっこうをしようとせず、わからないことはわからない、と言っていたことでした。このことによって、参加者の皆さんも、すごく親近感を感じたのではないかと思います。」といった激励の感想が複数寄せられました。

なお、発表資料作成につきましては、清水悠加さんら近田研の学生と共に、キャリアパス紹介として本学会の女性会員数名から資料提供をいただきました。以前の同資料と比べると、大学職員と企業社員が含まれる幅広い内容となりました。ご協力いただきました皆様、大変ありがとうございました。